

## 「 コロナ禍での気づき 」

井上景子

一昨年3月、感染症の影響で子供たちは3か月間休校になりました。当時の私は、一保護者として、とても不安を感じました。親として、学校の勉強（教科書に掲載されている事）を習得させなければ…と焦りました。しかし私の不安を払拭してくれたのは子供たちでした。子供たちは、自分の興味のある事を本やネットで調べ、フィールドワーク（庭遊び）の中で学びを深めていました。ある子は、地球や鉱石の図鑑や本を読む事に没頭し、庭では地面をひたすら掘り、石を探し出し、ゴーグルをしてハンマーとタガネで石を割り続けました。石の中から鉱石が出てくるかもしれないという探求心からでした。子供たちは各々自分の興味ある事に没頭していました。その姿を見て、学びというのは、自分の中から湧き出てきた疑問や好奇心を、自分自身の行動を通じて理解を深めていく事なのだと感じました。そしてその学ぶ力（好奇心）は子供たちの中にある事に気付かされました。

子供たちはコロナ禍であろうと、しなやかに成長を続けています。成長してない子は一人もいません。100人いれば100通りの成長の仕方があります。教育とは、全ての子供たちが、自分の好きな事（興味がある事・やりたい事）に気付く為に、様々な分野の事を系統立てて教えたり考えさせたりしているのだと感じました。次世代を担う子供たちの柔軟性と意欲を信じ、今の子供たちに本当に必要な教育のあり方を考えていきたいです。